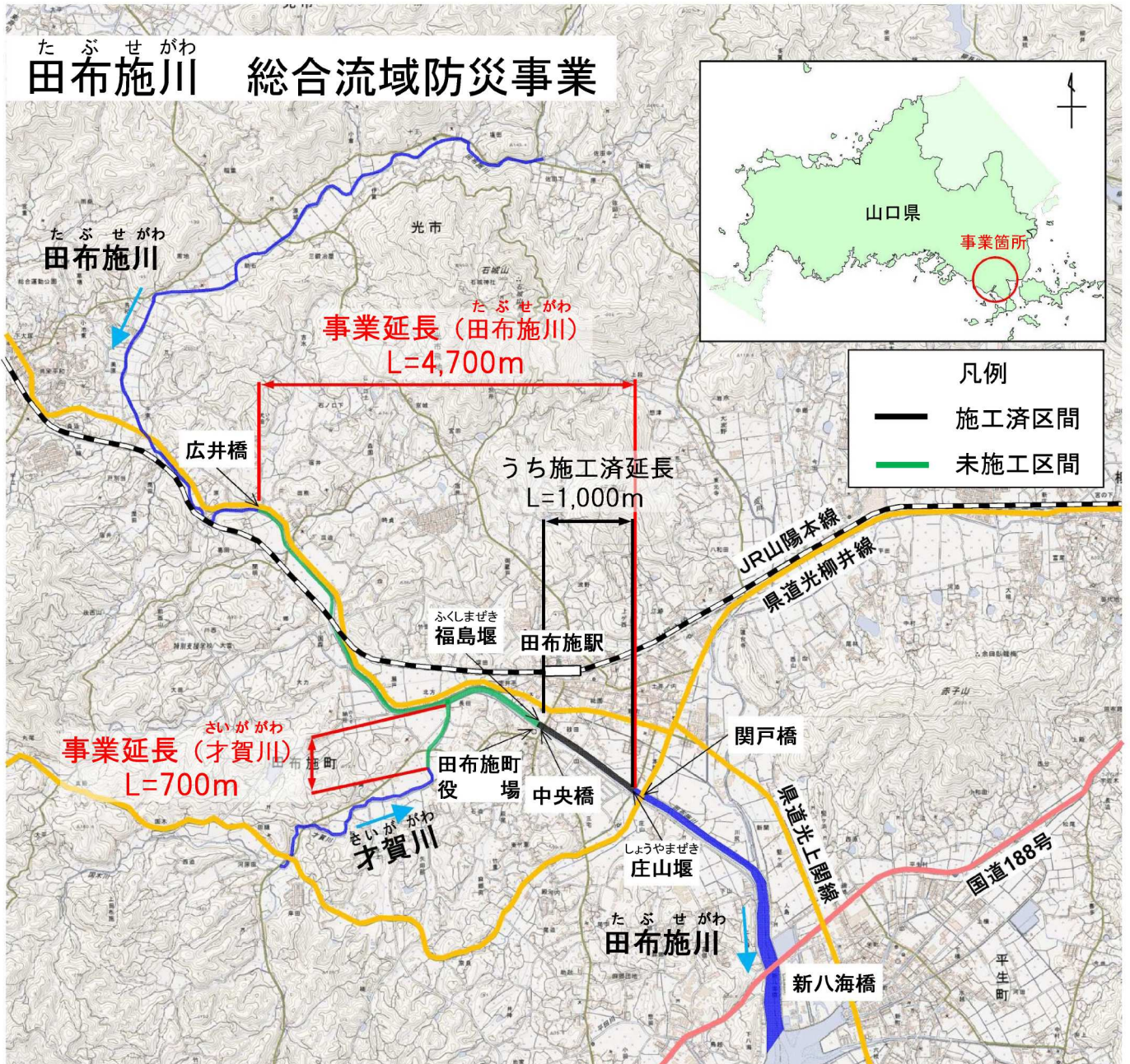


再 評 価 項 目 調 書

再評価実施要件		○ 事業採択後 () 年 ● 再評価後 (5 年) ○ その他 ()				
1 事 業 概 要	事業名	たぶせがわ 田布施川 総合流域防災事業				
	事業場所	熊毛郡田布施町下田布施 地内				
	事業主体	山口県				
	事業期間	《 前回評価 平成 25 年 時 》 平成 16 年度 ~ 平成 45 年度 《 平成 45 年度 》 (西暦 2004 年度 ~ 西暦 2033 年度 《 西暦 2033 年度 》)				
	総事業費 (内用地補償費)	《 4,078 百万円 》 4,078 百万円 (184 百万円)	既投資額 (内用地補償費)	957 百万円 (10 百万円)	進捗率 (用地補償費) (5 %)	23 %
	事業目的	たぶせがわ、いおきさん 田布施川は、光市石城山山麓の丘陵地を源とし、さいがわ、やいがわ 才賀川や灸川等の支川を合わせながら瀬戸内海に注ぐ、流域面積55.1km ² 、流路延長15.1kmの二級河川である。 田布施川流域のうち、当該地域については、小中学校や町役場等の公共施設、商業施設、家屋が立地しており、JR山陽本線や県道光上関線等の主要な交通網も整備されている。 しかしながら、当該箇所は、洪水に対する安全度が低く、昭和52年5月の豪雨や昭和53年6月の台風による豪雨、平成5年8月の梅雨前線による豪雨、平成17年7月の豪雨により浸水被害が起きていることから、河川改修を実施し、浸水被害の軽減を図る。				
	事業内容	延長 L=5,400m (田布施川 L=4,700m、才賀川 L=700m) (河道掘削工、築堤工、護岸工、橋梁工、堰改築) 洪水対策の整備規模 年超過確率 1/30 (田布施川)、1/10 (才賀川)				
事業効果	年超過確率1/30 (田布施川)、1/10 (才賀川) の洪水時における浸水被害防止効果 浸水戸数 817 戸 → 0 戸 浸水面積 240 ha → 0 ha 被害額 11,961 百万円 → 0 百万円 平成5年8月梅雨前線の洪水時 (年超過確率1/15 (田布施川)) における浸水被害防止効果 浸水戸数 5 戸 → 0 戸 浸水面積 5 ha → 0 ha 被害額 26 百万円 → 0 百万円					
2 再 評 価 の 視 点	(1) 社会経済情勢の変化	浸水区域に関する指標について、前回評価から世帯数が増加し宅地化も進んでいることから、治水対策の必要性は依然として高い。 【浸水区域に関する指標の変化 (国勢調査)】 《下田布施地区ほか》 ○人口 : 0.97倍 (5,958/6,156人) <H27/H22> ○世帯数 : 1.01倍 (2,266/2,248世帯) <H27/H22> 《参考: 県全体》 ○人口 : 0.97倍 (1,405/1,451千人) <H27/H22> ○世帯数 : 1.00倍 (597/596千世帯) <H27/H22>		中項目 評 価	大項目 評 価	
	関係市町及び地元の意向	当該事業は、自治会、水利権者等の地元関係者や学識経験者等により構成する川づくり検討委員会です承されており、これまでの浸水被害の経験から、地元住民の被害軽減に対する要望は強い。		中項目 評 価	大項目 評 価	

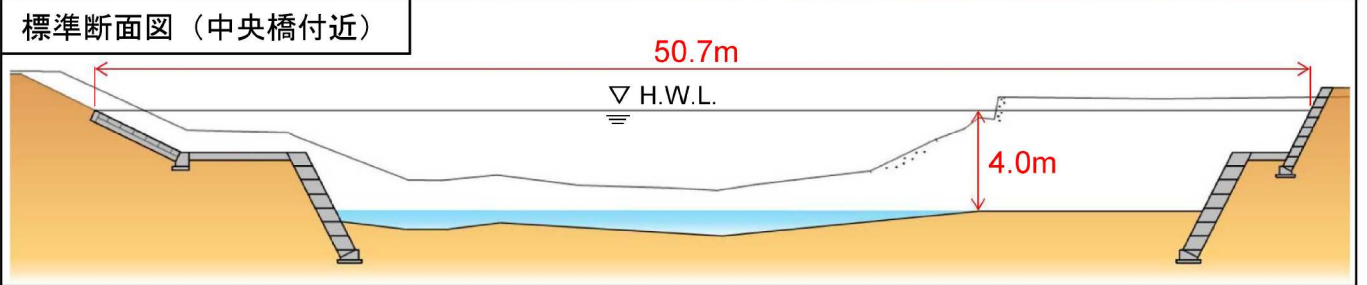
2 再評価の視点	(2) 事業の投資効果	費用対効果分析等	<p style="text-align: right;">(単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">主な項目</th> <th>前回 (基準年：H25)</th> <th colspan="2">今回(再々評価) (基準年：H30)</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>全体事業</th> <th>全体事業</th> <th>残事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">便益 (B)</td> <td>①一般資産被害軽減便益</td> <td>23,212</td> <td>34,134</td> <td>25,274</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②農作物被害軽減便益</td> <td>270</td> <td>356</td> <td>299</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③公共土木施設等被害軽減便益</td> <td>39,310</td> <td>57,812</td> <td>42,795</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④その他の便益</td> <td>3,259</td> <td>5,172</td> <td>3,993</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総便益</td> <td>66,051</td> <td>97,474</td> <td>72,361</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">費用 (C)</td> <td>①事業費</td> <td>3,019</td> <td>3,309</td> <td>2,152</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②維持管理費</td> <td>344</td> <td>376</td> <td>345</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td>3,363</td> <td>3,685</td> <td>2,497</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用便益比(B/C)</td> <td>19.6</td> <td>26.5</td> <td>29.0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 便益(B)・費用(C)は、算出した各年次の値を割引率を用いて現在価値に換算した合計額</p> <p>【費用対効果分析手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○根拠マニュアル 治水経済調査マニュアル(案)平成17年4月 国土交通省河川局 ○各便益の説明 <ul style="list-style-type: none"> ①一般資産被害軽減便益：整備により軽減される家屋、事務所、農漁家の資産被害額 ②農作物被害軽減便益：整備により軽減される農作物被害額 ③公共土木施設等被害軽減便益：整備により軽減される公共土木施設等(道路、農地、農業用施設等)の被害額 ④その他の便益：施設の残存価値、整備により軽減される営業活動停止損失および応急対応にかかる費用 	区分	主な項目	前回 (基準年：H25)	今回(再々評価) (基準年：H30)		備考	全体事業	全体事業	残事業	便益 (B)	①一般資産被害軽減便益	23,212	34,134	25,274		②農作物被害軽減便益	270	356	299		③公共土木施設等被害軽減便益	39,310	57,812	42,795		④その他の便益	3,259	5,172	3,993		総便益	66,051	97,474	72,361		費用 (C)	①事業費	3,019	3,309	2,152		②維持管理費	344	376	345		総費用	3,363	3,685	2,497		費用便益比(B/C)		19.6	26.5	29.0		大項目 評価 A ・ B ・ C
	区分	主な項目	前回 (基準年：H25)			今回(再々評価) (基準年：H30)		備考																																																					
			全体事業	全体事業	残事業																																																								
	便益 (B)	①一般資産被害軽減便益	23,212	34,134	25,274																																																								
②農作物被害軽減便益		270	356	299																																																									
③公共土木施設等被害軽減便益		39,310	57,812	42,795																																																									
④その他の便益		3,259	5,172	3,993																																																									
総便益		66,051	97,474	72,361																																																									
費用 (C)	①事業費	3,019	3,309	2,152																																																									
	②維持管理費	344	376	345																																																									
	総費用	3,363	3,685	2,497																																																									
費用便益比(B/C)		19.6	26.5	29.0																																																									
(3) 事業の進捗	事業の進捗と今後の見通し	<p>事業延長5,400mのうち、田布施川の庄山堰<small>しょうやまげき</small>から中央橋までの約1,000mの河川改修及び、福島堰<small>ふくしまげき</small>の旧堰撤去が完了し、洪水に対する防護機能が向上している。残工事において、事業進捗における阻害要因はなく、今後計画的な進捗が見込まれることから、引き続き、上流に向けて河川改修を行い、浸水被害の軽減に努める。</p> <p>【事業費の変化】 有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/></p> <p>【事業期間の変化】 有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/></p>	大項目 評価 A ・ B ・ C																																																										
(4) 代替案等の可能性	コスト縮減	建設残土の処分においては、周囲の公共事業と調整して可能な限り流用することとし、コストの縮減を図る。	<table border="1"> <tr> <td>中項目 評価</td> <td>大項目 評価</td> </tr> <tr> <td>a b</td> <td>A</td> </tr> </table>	中項目 評価	大項目 評価	a b	A																																																						
中項目 評価	大項目 評価																																																												
a b	A																																																												
代替案	代替案として「遊水池案」などが考えられるが、経済性等の観点から、現計画の「河川改修案」が妥当である。	<table border="1"> <tr> <td>中項目 評価</td> <td>大項目 評価</td> </tr> <tr> <td>a b</td> <td>B ・ C</td> </tr> </table>	中項目 評価	大項目 評価	a b	B ・ C																																																							
中項目 評価	大項目 評価																																																												
a b	B ・ C																																																												
3 環境	配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・汚濁防止対策として、河川内工事に際しては、沈砂池等を設置する。 ・低騒音・低振動の建設機械を使用する。 ・河道掘削については、現況河床の瀬や淵をなるべく残すこととし、護岸については、動植物の多様な生息・生育環境に配慮した構造とする。 																																																											
4 対応方針	総合評価	● 継続 ○ 見直し継続 ○ 中止																																																											
	評価理由	事業の必要性、費用対効果等を勘案し、事業継続が妥当と判断する。																																																											
	備考																																																												

たぶせがわ 田布施川 総合流域防災事業



凡例

- 施工済区間
- 未施工区間



この地図は、国土地理院の地理院地図(電子国土Web)の一部を掲載したものである。